

お名前（ 北野留美 ）

滞在先（ 陸前高田 ）

習った芸能（ 広田の御祝い／上ノ坊の田植踊／生出の神楽 ）

### 1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか？

沿岸、海に近いが山手、内陸の風土の違う3つの芸能を同時期に習うことで、その特徴がとらえやすかったと思います。

芸能を鑑賞するというのと実際やってみるということの違いがこんなにもあるかと感じました。同じようにやっているつもりでもすぐにはとても真似できないし、道具の重さ、美しさ、手にとって近くでみるといふことの貴重さを感じました。



東海新報 2019年10月22日号に掲載

### 2) 今回三陸に滞在してみていかがでしたか？良かった点、困った点をお聞かせください。 (移動や食事、宿泊、練習場所など)

車の運転できないのが不安でしたが、コーディネーターが送迎は全て、スーパーへ買い出しも何度か車で連れて頂きましたし、泊まっているところから、10分ほど歩けば（ただし上り下りは結構あります）小さいスーパー、駅、ポストありました。自



上ノ坊の田植踊を習う その1

転車で20分位のところにコンビニもあったので、特に支障はありませんでした。

宿泊したシェアハウスでは、これから高田に移住するという方々とご一緒し、この方たちもコミュニティでの役割を大いに果たしておられ、地域の芸能に参加している当事者だったので、よそ者が入っていくという立場、そしてこれからのビジョンをうかがうことができ、たいへん興味深かったことのひとつです。

3) 今回の三陸での AIR は、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思われましたか？

人から習ったものをソースにしてクリエイションするということを意識的にやるのがはじめてのことで、どうなるかと自分の変化にも期待していました。芸能を習うということが高田では、そこで



上ノ坊の田植踊を習う その2

暮らす人の生活、その土地の地理や歴史を学ぶという体験そのものでした。災害と

人のくらしに直面して、三陸のおもしろさ、たいへんさを知ることで、芸能がなんであるのか、どうして人はこんなにも工夫をしてきたのかずいぶん考えるようになりました。

4) 今後も三陸の郷土芸能を習いたい、通いたいと思われたときに、AIR 以外にどのような方法や制度があると良いと思われますか？

上ノ坊の田植踊は休止して 45 年ほどたっているようで、全容を知るのは難しいのですが、今回のコーディネイターの永田さんがお住まいの上ノ坊の地域では盆踊りを復活する動きがあり、例えばその中で、田植踊の一部分だけでももしやってみてもよければ、覚えている方から引き出して、地域の若い人たちに伝えるあいまに入ったりとかができれば。上ノ坊の歴史が詰まっているので、覚えている方から聞いておいたら、その地域の糧になると思えました。そういった場面でのファシ

リテーターやリサーチャーの仕事があればいいなあと思います。

生出の神楽ではお面や道具を手づくりされているので、道具を作ってみるワークショップなども

できたらおもしろいなあと思いました。鳥舞につかう兜、紙に手描きできれいに彩色されており、すばらしいなあ感激いたしました。

あと手ぬぐいをつくりたいということもおっしゃっていたので、そういったデザインのお手伝いもできたらいいかなあとかも。



上ノ坊の田植踊 装束の着付けの様子

## 5) 上記以外にご意見やご感想がございましたら、自由にお書きください。

最初に訪ねた広田町長洞（ながほら）は、海の真ん前で、津波の被害の大きい所のようにでした。集落の半分が家を失ったとのこと。身内をなくされたかたも相当いらっしゃるんでしょう。芸能の保存会と自治会全体との間で、芸能のクオリティやかける時間、お金などの意見がさまざまで、どなたのおっしゃることもまちがってないし、そうだなーと思う所ばかりでした。でもどうしたら、というところにおちあたっていらっしゃいました。

4年に一度の祭りに、部落で参加するのが、



A. I. R. での体験を作品して展示（東京都）

震災の影響で12年ぶりとのことで、祭りにかかる思いが尋常ではなく、それに加えての大型台風で、とても部外者が入れるような状態ではないところだったのかもしれませんが、そこにたまたまいあわせたことで、高田の地域の力、思いを生々しい形でみたと思います。

三陸国際芸術推進委員会事務局